

平成30年度 第2回 菊池市の未来を考える懇談会会議録

日時：平成30年10月1日（月）10：00～

場所：菊池市役所 3階 308委員会室

出席者：田中忠彦委員、松岡義清委員、岩根要委員、山口法子委員、構原茂樹委員、菊永光作委員、水上博司委員、森代美子委員、三池友和委員、古津理恵委員、青木悦朗委員、佐美三信雄委員、松岡友美委員、上野眞也委員

傍聴者：なし

事務局：江頭市長

元島政策企画部長、谷田経済部長

【企画振興課】泉課長、上野係長、松村主事【農政課】清水課長

【農林整備課】倉原課長【農業委員会事務局】坂本事務局長

1. 開 会 進行者：泉企画振興課長

2. 会長あいさつ 上野会長

3. 市長あいさつ 江頭市長

4. 報 告

(1) 新市建設計画普通建設事業進捗状況について…報告資料

企画振興課（松村）説明

（議長）	事務局より説明がありましたが、何かご質問はございますか。
（委員）	泗水地区の最終的な見込の達成率が97.4%となっていますが、他の地域が100%を超えている中で泗水地区がこういった状況になっている要因は何ですか。
（事務局）	優先的に取組む事業の中で、まず、北岸線道路改良事業に関する土地購入や交渉について若干遅れています。また、松尾川改修事業についてもH31年度までに完了せず、事業を継続していくため、H31年度時点では97.4%となっています。
（委員）	分かりました。引続き、よろしくお願いします。
（委員）	旭志地域は、優先的に取組む事業はありませんが、管内の道路改修は合併特例債等を使って整備を行い、整備は進んでいたと思います。共通事業は、庁舎整備が主ですか。
（事務局）	庁舎整備関係については、共通事業の中に入っています。資料の平成

	26年度までの実績を見てもらうと、旭志地域は比較的早く進捗したということが分かるかと思います。
(委員)	共通事業の定義はどういったものですか。
(事務局)	地域審議会の中で、各地域で整備する部分と合併した新市で共通して整備する部分を取り決めていきます。また、地域審議会を閉じる際に報告をしています。
(委員)	優先的に取組む事業の中で、共通事業は大きなウエイトを占めていますので、共通事業の定義が分かるような資料があれば説明しやすいので、示せるような資料があれば後ほど示してもらえればと思います。
(委員)	菰入橋の工事はどうなっていますか。
(事務局)	橋の工事については、これから上部工工事に入る予定です。
(議長)	その他に何かご質問はありますか。それでは、報告については以上とし、本日の議題である、菊池市の未来について、皆様と意見交換をしたいと思います。

5. 議 題

(1) 菊池市の未来を考える…資料1、資料2

(議長)	本日は、市長4ヵ年戦略の一つである、未来につながる農業力をテーマに懇談を行います。懇談に入る前に現在の市の取組等について、事務局より説明をお願いします。
------	------------------------------------------------------------------------------

企画振興課（松村）説明…資料1、資料2

(事務局)	本日の懇談会は、特に、農産物の消費や菊池ブランドの向上、他分野との連携に関して懇談を進めていければと思います。
(委員)	菊池市の基幹産業が農畜産業であることは理解しているし、重要な政策分野の一つであると思います。市長の4ヵ年戦略の取組の一つとして、集団営農の促進がありますが、現在の取組状況はどうなっていますか。また、育苗企業の誘致の現状も併せて教えてください。
(事務局)	1点目の質問については、調べる時間を少しくください。
(市長)	2点目の質問は私から説明します。合併当初に新しい市役所庁舎を花房台に建設するという話がありましたが、諸般の事情により建設の話が無くなりました。しかし、建設予定地を既に市で購入していて、その土地をどうにかしなければなりませんでしたが、予定地は農地でしたので、公共用地の活用以外は農地としてしか活用ができませんでした。そうした中、種苗会社が土地を探していて、本市へ企業進出することになりました。以前は農家自身で種をまき、苗を育てて野菜等を作っていました。現在は育苗専門の方がいて、農家はそこから苗を購入する形がほとんどです。育苗は、工場内でロボット等の機械により効

	率的に行われています。詳細は担当部署より説明します。
(事務局)	進捗としては、企業側では補助事業を活用しながら、工場の設計を進めている所です。
(委員)	市長の4ヵ年戦略に掲げている7つの取組の進捗が市民には伝わっていないと思いますので、進捗を教えてください。また、6次産業化に関して、実践するのは難しいことだと思います。農業の6次産業化を進める上で、まず販売先を見つけ、それに対してどう取組むかを考えるという流れがなければ進まないと思います。例えば、行政主体ではなく、国や自治体等の補助事業を活用しながら、共同事業体を作り、様々な情報を集約し、農家や企業に情報を発信し、6次産業化が推進できればと思います。現在の市の取組だけではなく、農家や民間がもっと連携できるような仕組みができればと思います。それから、学校給食等の地産地消について、以前会議等で地産地消率が約3割と聞きましたが、地産地消率の現状と地産地消率を高めるための取組等について教えてください。
(議長)	6次産業化を進めるためのコンソーシアムのような枠組みができないかというご提案がありましたが、こうしたご提案に対して、市長や担当部署と意見交換ができればと思います。
(事務局)	まず、先程委員より質問のあった、集団営農の促進について説明します。集団営農の目的は、各々の農家でバラバラに栽培していたところを、集団で計画的に営農することで、コスト削減や効率的な農業を進めることです。集落営農組織数は、菊池地域は11組織、その内法人化しているのが2組織です。七城地域は8組織で、法人化組織はありません。旭志地域は6組織で、法人化組織はありません。泗水地域は11組織で、法人化組織は1組織です。また、現在法人化をすすめている組織が菊池地域に2組織、旭志地域に1組織あります。
(議長)	先程、委員から6次産業化の推進に対するご提案がありましたが、それに対して事務局のご意見はありますか。
(事務局)	先程、委員から意見があったとおり、6次産業化の推進のためには、販路の確保が重要であると考えます。特に、新たな作物の6次産業化を進める際には、販路の確保にとっても苦労します。また、作物に求めるニーズなどの情報が入ってくることがあります。例えば、菊芋やヤーコンに関して、菊芋の粉末が大量に欲しいという情報が入りますが、マッチングに至らないこともあります。その他に、市では全国で6次産業化に取り組んでいる方を講師として招いた講習会に取組んでいます。各々がノウハウを持っていますので、委員がご提案されたコンソーシアムがあれば、情報が共有され、ノウハウ等を結びつ

	けることができるのではないかと思います。
(議長)	従来であれば、農協や物産館の部会等の会合があると思いますが、商業と農業の連携など多業種がつながるような菊池市独自のネットワーク組織はありますか。
(事務局)	個人同士でのつながりはあり、その中で販路やニーズなどの情報が入ることはありますが、それをつなげるようなネットワーク組織はありません。
(議長)	委員のご意見はとても鋭い指摘だと思います。そうしたネットワーク組織ができれば、新たなビジネスの可能性が広がると思います。
(委員)	新規就農者や後継者について、農産物の質はもちろん素晴らしいと思いますが、それ以上にその生産者が素晴らしいと思います。ですので、そうした方々の思いを若い人につなげるような取組ができればと思います。現在、高校魅力化の取組を進めていますので、菊池農業高校はもちろん、菊池高校や菊池女子高校の学生にも農業者の思い等を伝えることで職業観が広がると思います。農産物のブランド化はもちろん大切ですが、それを支える人材育成が重要だと思います。
(議長)	農業に従事している人の姿を私たちがもっと知ることができ、高校生などの若い人に共感してもらえるようにできるといいですね。
(委員)	農業に携わったことがない中高生などの若い人が農業を体験することで、自分自身の夢や職業観が膨らむように思います。
(議長)	自然豊かな地域ですので、中高生と農家が交流することで農家自身の活力が増すと思いますし、新たな人材育成にもつながると思います。先日、大学の学生を連れて稲刈りに行きましたが、ほとんどが女子でした。最近の若い人は案外農業へ関心を持っていると思いますので、農業高校以外にも可能性はあると思います。
(事務局)	先日の農業新聞に、公立や私立の大学に農学部設置の動きがあるという記事が載っていました。今年の夏の高校野球では、秋田の農業高校野球部の大躍進が話題になりました。また、最近ではロボットや情報通信技術を活用した、スマート農業を農水省で推進しています。今後は、農業の経験がない人もICT技術を通して、農業技術やノウハウを活用し、農業をやりやすくなる環境になり、若い人の農業への関心も高まると思います。
(議長)	市の特産品であるメロンや牛肉などを生産し、一定の収益が得られる農家などは後継者が育つように思います。今後法人化が進んでいけば、家族経営型だけでなく、雇用型の農業形態も増えていくと思います。さらに、6次産業化ということになれば、農産物の流通や加工など可能性が広がると思います。

(委員)	先日、テレビで農業高校の紹介番組を放送していました。菊池に住んでいると、農家の仕事など何となく分かりますが、都市部の方は農業をよく知らないと思います。菊池市にも農業高校がありますので、もっと多くの人に知ってもらいたいと思います。また、菊池まるごと市場というものがあることをよく知りませんでした。このネットショップ自体は全国向けに発信しているものだと思いますが、これのスーパーのようなものがあればいいなと思います。道の駅や物産館がありませんが、あまり行かずにスーパーに行ってしまう。スーパーだと様々な物が揃っていますので、地元の食材から日用品など様々な物が揃っているお店があればいいなと思います。そして、農家の間にも収益の格差があるという話を聞きますが、その要因は何なのか疑問に思います。
(議長)	スーパーなどは独自の流通網で安価に仕入れていますので、必ずしも地産地消が進んでいるわけではないと思います。しかし、可能であれば市民が地元産品を購入し、味わえるような仕組みができればいいと思いますが、菊池市の現状はどうなっていますか。
(事務局)	菊池まるごと市場についてご説明します。菊池まるごと市場は菊池基準に基づいた産品を中心に販売しています。スーパーとは異なり、菊池市産でなおかつ安心・安全な産品をPRし、販売しています。菊池市の農産物を知ってもらい、活用してもらうために、全国的にネット販売を行っています。もちろん、菊池市民も購入することはできますが、菊池市の安心・安全な産品をPRするというが目的ですので、通常のスーパーとは事情が異なるということを理解してもらえればと思います。
(議長)	理解を求めるだけではそこで話を終わるので、市民が地元産品を手に入れにくいという状況を少しでも改善するために、何かできることを考えることが大切だと思います。
(事務局)	物産館に行けば、地元産品を購入できますが、自分でお店に行くことができない買い物弱者の方がいます。その中で、現在物産館の方で食料品等の移動販売を行っています。ネット販売は送料もかかりますので、産品は安くはないというのが現状です。
(議長)	ネットショップは、全国に菊池市の農産物をPRするということが当初の目的だと思いますが、市民の方が地元産品を手に入れにくい現状について、今後検討してもらいたいと思います。また、農家の所得格差には、様々な要因があると思います。菊池市は米どころですが、米の栽培だけでは収益はあまり上がらないと思います。
(事務局)	収益を上げている農家は情報収集をよくされていると思います。

(議長)	そのとおりだと思います。先日、阿蘇にあるトマト農家を訪れました。農家によっては新しい技術を勉強したり、あるいは勉強したりしない所もありますが、努力している農家は最新の技術を取り入れ、互いに切磋琢磨しながら、品質の向上に努めているようです。
(委員)	農家の過ごし方には、生産を生き甲斐とする人や収益を迫及する人など様々な人がいると思います。米づくりは、市の取組もあって、全国的に評価されていますが、米を作る農家は減少していると思います。農家にとって、質の高い産物を生産し、販売につなげることが大切ですが、農協の関わり方も変わり、昔の環境からかなり変わっていると思います。米農家の転作も増えて、飼料米やWCS（稲発酵粗飼料）の栽培へ転換する所もあります。これらは栽培の手間があまりかかりませんが、本当の意味での農業かどうかは疑問です。高齢者の農家は、労力はまだありますので、農家が愛情込めて作った作物が販売される仕組みができれば、生産に生き甲斐を感じ、長く農業を続けられると思います。農業を体験し、関心を持つ若い人もいますが、農業を発展させていくためには、今の農家をいかに持続・発展されるかを考えるべきだと思います。農家の中には質の高い産物を生産し、6次産業化などを進める農家もありますが、すべての農家ができるわけではありません。一部の農家を引き上げるだけでなく、農家全体の底上げが必要だと思います。
(議長)	これまでの農業の政策の転換や市場価格の変化もあり、農家の不安が高まっている時期である一方で、転換のチャンスとも言えると思います。集落営農や法人化が進められている一方で、零細農家や高齢農家が何とか土地を守っている現状もあるので、両方の視点に立った支援が必要だと思います。高齢者のための農業という視点は大変面白いと思いました。以前、奄美を訪ねた際に、高齢者が庭先で栽培した野菜を地域の若い人が集荷し、近くの道の駅まで出品するという仕組みが取り入れられていました。高齢者の収入になり、消費者にとっては新鮮な食材が手に入ります。ちょっとした流通の仕組みですが、様々な取組を行っている自治体もあります。
(委員)	私は現在農業をやっていますが、後継者が一番の問題です。地元では下から3番目に若い方で、この数年で3件ほどの農家が農業を辞めました。地域に後継者がいなければ、外部から連れてくる方法もあると思います。私はくまもと版ワーキングホリデーに携わっており、今年で2年目になり、これまでに3回受け入れをしています。その中にはその後も菊池で農業を勉強している人もいます。その他に、農業を全くしたことがない若い人も来て、熱心に仕事をしてくれます。やる気のある若い人はいるので、菊池版のワーキングホリデーなど、そうし

	<p>た人が菊池で農業ができるような仕組みができればと思います。また、地域おこし協力隊の方にも農業を学んでもらい、任期3年が終わったら、農家ができるような仕組みができればいいと思います。</p>
(議長)	<p>こうした取組は定住や就農のきっかけになるとと思います。</p>
(委員)	<p>菊芋やヤーコンが生活習慣病に効果があるという話を聞きますが、糖尿病に効くなど具体的な効果をもっとPRすると利用が増えると思います。また、調理がしにくいことも普及が進まない原因であると思いますので、粉末にするなど工夫すれば利用しやすくなると思います。近所のある人は、菊芋の酢漬けを作り、毎日食べていたら血糖値が下がったそうです。ブランド化するためには、効果をより具体的に示す必要があると思います。</p>
(委員)	<p>地元で野菜を作っていて、会社を立上げて今年で3年目になります。その中で、ねぎのブランド化に取り組んでいます。通常のスーパーのようにテープでとめるのではなく、袋詰めをして、PRをしています。努力が少しずつ実を結び、県外からの取引の依頼があります。新規就農について、支援金などが設けられ、申請が増えていると思います。私の会社にも新規就農者が来ますが、やる気などに差があります。できるだけ離農させたくないの、新規就農者向けの講習会や経験者と組ませて農業をさせる取組はいいと思います。それから、ふるさと納税等を利用して、農産物の消費拡大に繋げてもらえればと思います。</p>
(議長)	<p>新規就農者の動機付けや意欲は人それぞれですので、講習会等を通して、農業の魅力を感じられるようにできるといいと思います。</p>
(委員)	<p>山形県にある米沢郷牧場という所の中にファーマーズ・クラブ赤とんぼという組織があり、そこでは田んぼの生き物観察会という取組を行っています。田んぼの中にいるカエルなどの生き物を実際に触ってみるという取組で、関東からも参加者が来るようです。親御さんは農業をしていなくても、子どもに農業体験をさせたいという人が家族連れで泊まりに来て、体験をされるようです。農業だけでなく、観光など様々な分野につながる取組だと思います。また、高齢者の農業従事者が、若い人や農業経験のない人に指導する立場で活躍できるような場があればいいなと思います。</p>
(議長)	<p>地域の生産の場の田畑も、見方を変えると豊かな自然環境が保たれた場ですので、そこから様々な気づきが得られると思います。</p>
(委員)	<p>熊本県内の農家が地元で販売しない要因は、安価でしか売れないということだと思います。安定した経営を考えた場合、どうしても都市部などの高く販売できる所に出荷してしまうと思います。また、菊池基準の推進やブランド化を進める上で、熊本県や農林水産省が進めてい</p>

	<p>る、有機農業推進条例等を菊池市独自で策定することも必要だと思えます。そして、ネットショップについて、野菜類は物産館等で購入した方が新鮮なものが入手できますし、日用品などいろんな物が揃わないという事情があると思えます。それから、新規就農者や就農希望者について、実際に話をしてみると、農的生活を求めている人が多いですが、明確な農業経営方針を持っている人は少ないように感じます。新規就農や移住に関して、10人中2、3人就農に結びつけば御の字だと思いますので、そのぐらいの感覚で農家体験の受け入れ等を行えばいいと思えます。たとえば、新規就農や移住に結びつかなくても、良いイメージを持ってもらえれば、その人が発信者や消費者になってくれると思えます。しかし、農協や行政等が連携して、新規就農希望者の研修の受け入れ等を行っている地域が少ないと思えます。私が知っている所では、南阿蘇村で複数の農家が研修等の受け入れ農家の登録を行っており、行政で募集を行っています。また、新規就農をする上で一番の課題が住居だと思います。空き家は多数ありますが、貸してもらえるところを探すのに苦労すると思えますので、行政で支援してもらいたいと思えます。そして、都市部で国や県主催の就農相談会等が開催されていますので、菊池市からも職員が参加し、呼び込みをしてもらいたいと思えます。それから、近年サプリメント等の需要が国内でも高まっています。その中で、熊本大学薬学部がサプリメントなどの薬用植物の研究に積極的に取り組んでいて、合志市と連携協定を結んでいますので、そうした方向性も検討してもらいたいと思えます。</p>
(委員)	<p>酪農をしています。後継者不足という問題は同様にあります。補助事業はありますが、要件などもあり、規模の小さい酪農家までは行き届いていないのが現状です。作業効率化の設備投資を行うと、資金が足りず借金をする必要があります。そんな中でも、自分でできることをやろうということで、SNS等での情報発信や農業高校生の研修受け入れなどを行い、酪農へのイメージを少しでも良くしたいと思い、取り組んでいます。その他に、農家の婚活支援として、農協の婚活プロジェクトに携わり、今年も婚活イベントを2回行い、県外からの女性参加者もありました。しかし、情報発信が限られていましたので、行政と連携して取組めれば、もっと効果的な情報発信ができると思えます。それから、酪農家の経営形態として、夫婦2人で営む農家では、繁忙期に人手が足りないので、簡易的な作業を手伝ってくれるような人材の受け皿があればいいなと思えます。</p>
(議長)	<p>苦労している中でも様々な工夫や取組を行い、素晴らしいと思えます。</p>
(委員)	<p>林業を行っています。林業という言葉が全く出てこなかったのが残念でした。最近が山間部に太陽光発電パネルの設置が増えています。</p>

	農地の後継者がいないこともあり、そのまま所有しているよりは処分した方がいいため、次々に発電パネルが設置されています。市では災害に強いまちづくりを掲げていますが、大規模災害が発生すれば、そうした所が一番に崩壊すると思います。
(議長)	林業は長い年月を必要とする重要な産業だと思います。熊本県では、間伐等の森林整備の補助制度を設置したり、林業大学校を新たに開校したりするなど山林の保全に重点を置き始めていると思います。今後少しでも林業に携わる人が増えるように手立てを講じてもらえればと思います。1つ質問ですが、菊池市では学校給食に地元の食材を積極的に使用しているという話がありました。近隣の自治体では、給食を運営している会社が米などを購入しているため、地元産に限定することができないという状況もあるようですが、菊池市では、菊池産のお米などを給食で食べることができるということで、良いことだと思いますが、現状はどうなっていますか。
(事務局)	小中学校の学校給食への地元産品の使用は、熊本県産の農産物を約50%使用しており、その内約20%が菊池市産の農産物です。米については、ほとんど菊池産を使用しています。
(議長)	ありがとうございました。時間になりましたので、本懇談会を閉めたいと思います。最後に、江頭市長から一言お願いします。
(市長)	本日は、活発なご意見をいただきありがとうございました。4ヵ年戦略の現状の取組について少し説明します。まず、後継者問題について、先程話があったワーキングホリデーは、数日間という短期間ですが、今後の展望としては、3年程度の期間を設け、農業を希望する都市部の人と後継者不足に悩む農家を結びつけるような仕組みを構築できればと考えています。また、最近では農業など様々な分野でICTの活用が進められていますが、先般、大手企業数社の協定を結び、そうした企業のノウハウ等を活かしながら、農業分野へのICT活用を進めている所です。短期的・中期的に様々な取組を行う必要がありますが、そうした中で11月に就労・暮らし体験ツアーを実施し、酪農家で乳牛のお世話体験をしてもらいます。また、菊池市の農業者の現状として、認定農家数はここ数年増加しており、新規就農者数は毎年20名～30名となっています。就農希望者への支援としては、年間最大150万円を5年間補助する国の制度に加えて、市で、新規農業就業奨励金という制度を設けるなど財政的な支援を行っています。農産物について、量と質のどちらを求めるかという方向性があります。企業化して米作りに取り組み、大量に生産しスーパー等で安く販売している所もありますが、菊池市の場合は、長い米作りの歴史がありますので、品質を推すべきだと思っています。社会全体として、健康志向が今後も続いていくと

思いますので、品質を推していくことで菊池らしさをPRできると思います。農業分野の中でも、例えば酪農など少人数では設備投資の資金面や労力面での負担が大きい分野もあり、そうした分野は組織化・集団化した方が効率的だと思いますので、実際の農家の声などを聞きながら進めていきたいと思います。また、高齢生産者の支援について、農家への集荷支援の取組を既に行っています。そして、農繁期の作業支援として、JAでお助け隊という取組を行っていて、取組に対して市から補助をしています。それから、米日本一戦略について、これまでの米食味コンクール国際大会で金賞を3年連続受賞し、更なる取組として、平成29年度より九州の米食味コンクールを本市の主宰で開催し、平成30年度も開催予定です。次年度以降は九州の他の自治体で開催する予定ですが、本市からも米の出展を継続的に行き、高位入選を目指したいと考えています。また、健康食材の産地化推進については、ごぼうはこれまでも定評がありましたが、同じキク科の植物としてヤーコンや菊芋があり、様々な効能がありますので、菊池産の健康食材としてPRし、出荷量も増えています。一方で、委員から意見のあった、健康食材の具体的な効能や科学的な裏づけについては、現在熊本大学や崇城大学などと連携協定を結んでいますので、そうした連携を活かし、効果的なPRをしていきたいと思います。そして、委員から菊池産の良い食材をスーパー等で買えるようにしてほしいといった意見がありましたが、市外などで高く販売できるということは農家の収益につながり、菊池の農業の安定にもつながります。製品の量よりも質を求めると、ある程度高価格になりますが、その分健康的で、安心・安全で、かつ環境に配慮しているということが言えると思います。それから、将来的に農業を継続していくためには、たとえ後継者がいても、同じやり方を続けていくには継続しないので、経営力が求められると思います。菊池市では、農業経営大学校と連携し、その学校の講師を招き、セミナーを行っています。市として、様々な取組を行うことはもちろん重要ですが、農家それぞれの経営に対する姿勢や問題意識も重要だと思います。菊池市内の農家の中には、欧州に販売交渉などに出向いている所もあります。このように、農家の方からこうした動きや取組が行われることが理想的ですし、こうした動きに対しては、市もできる限りの支援をできればと思います。また、6次産業化については、本市の地域おこし協力隊の中に、ブランド化や6次産業化に取り組んでいる隊員がいて、地元の椎茸を使って開発した商品が県のコンクールで金賞を受賞しました。その他に、国の補助制度を活用し、市内第三セクター共用の加工所の設置を予定していますので、そうした施設を活かし、商品開発を推進できればと思います。6次産業化を農家自身で

	<p>行うことは難しいので、JA と商工会、第三セクターが互いに連携できるような場を構築できればと考えています。そして、林業は、伐採や植林を個別で考えると利益を高めることは難しいですので、製材までを含めた流れの中で見直す必要があると思います。特に、中山間地域は木々が多く、収入源となりますが、そうなるまでには長い年月を要します。中山間地域の生活自体が、特に都市部の人の魅力にもなっていますので、民宿などを通じた田舎暮らし体験を現在進めています。そうした取組が一定の収益につながるような仕組みができれば、林業の継続にもつながると思います。</p>
(議長)	<p>ありがとうございました。本日の議題については、終わります。それでは、事務局からお知らせをお願いします。</p>

6. その他

(事務局)	<p>本日は、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。次回の会議の開催時期は、決まり次第、皆様にお知らせします。</p>
(議長)	<p>それでは、懇談会を閉会させていただきます。</p>